

市政報告



武蔵野市
市議会議員

2024年3月 発行
みやしろ かずとし
宮代 一利

レポート Vol.8

〒 180-0003

武蔵野市吉祥寺南町 3-27-20 TEL 080-2343-1082

HP <https://wakumusa.com> ✉ wmusashino@gmail.com

市政へのご意見、ご相談をお待ちしています。



HP



宮代一利



@kaz389946021



@kazutoshimiyashiro



令和5年の当初（4年度）は、厚生委員会副委員長、令和5年度は厚生委員会委員長を勤めています。厚生委員長を拝命したことにより、私の中で福祉との関わりが強まってきていると感じています。

インクルーシブ教育に対する考え方について、子どもの教育だけではなく、日本人は人権の本質をもっと学び、当然ですが大人も含めて成長が求められていると、その先に本当のインクルーシブな世界が実現できると考えるようになりました。

私は、市議会で「インクルーシブ教育」「子どもの権利」「安全・安心のまちづくり」などについて質疑、提案しました。

今回は、その中から抜粋して要旨をご報告いたします。

インクルーシブ教育、理念と実施状況

宮代 インクルーシブとは包み込むという意味。社会の構成員として包み、支え合うという社会政策の理念で、武蔵野市でもそんな社会の形成を目指していると信じている。そのためにはインクルーシブ教育が不可欠。インクルーシブ教育システムとフルインクルーシブ教育の違い、市での実施状況を伺う。

教育長 どちらも目的は共生社会の実現を目指すもの。フルインクルーシブ教育は、特別支援学校・学級を設けず、全ての児童生徒が同じ場で共に学ぶ教育。インクルーシブ教育システムは、通常学級の他に特別支援教室や通級による指導、特別支援学級・学校といった多様な学びの場を用意している教育。市の実施状況は后者で、交流や共同学習を進めるために支援員の配置を行うなど、障害のある子の個別の教育的ニーズに応えるため、連続性のある多様な学びの場づくりや他の児童生徒の障害理解を推進している。

宮代 障害のあるなしに関わらず、なるべく多くの児童生徒たちが行きたいと思う学校であってほしい。分離して統合している限りにおいては本当のインクルーシブの形にはなり得ない。最初からごちゃ混ぜになっている状態が本当のインクルーシブだと思う。今の日本のやり方を変えることが本当のインクルーシブ教育につながるのではないかな。

教育長 個別最適な学びが新しい学習指導要領の関連で出てきて、特別な配慮を必要とする児童への指導が項目として立っている。個々に寄り添っていこうという表れ。障害のある子の自立活動という領域がとても大事で、個別の教育的ニーズを保障することが現在のインクルーシブ教育システムの中でできるのではないかな。

宮代 今回、私は甘ったるいことを言いますが、朝一番、最初に学校に着いた時に、いろいろな子がいて、おはようと挨拶を交わす教室（ベースキャンプ）から始まり、一緒に授業を受けるでもいいし、特別支援学級に行くでもいいし、そんな場所を作ってほしいと思っている。

今日もしぎかい

愛川町

神奈川県愛川町のインクルーシブ教育をご紹介します。

外国にルーツのある子や発達障害など支援が必要なき子が増え、インクルーシブサポートを配置

インクルーシブサポートは対象の子だけではなく、困難な場面ですらサポート

特定の子だけを対象にするスポットのインクルーシブ教育ではなく、面のインクルーシブ教育です。

すばらしい!!